全著作〈森繁久彌コレクション〉

全5巻

文人、森繁久彌（1913-2009）

演劇・映画・ラジオ・テレビのみならず、
作詞もし、歌をうたい、
そして自ら筆をとって多くの随筆を書き、
23冊もの本を遺した森繁さん。
人生のにがさ、人間のやさしさを語りかける
珠玉の作品群を集成！

10/25 全国配本

【本コレクションの特長】

- ○多忙な俳優業のかたわら、自ら筆をとって書かれた珠玉の随筆を精選し、できるだけ網羅した。
- ○著者のこれまでの単行本から、あらためてテーマ別に構成し直し、著者の執筆活動の全体像とその展開を、わかりやすく示す。
- ○各巻のテーマにふさわしい解説を附し、著者の仕事を、来たるべき読者に向けて新鮮な視点から紹介する。

第1巻 道――自伝　⊙解説　鹿島　茂

……〝文人〟の家の流れを受け継ぎ、演劇の世界へ。新天地・満洲での活躍と苦難の戦後、帰国。そして新しい日本で、俳優として活躍した森繁さん。人生五十年の〝一応の区切り〟として書いた『森繁自伝』、『私の履歴書』他。　口絵8頁

〈付〉年譜／人名索引　（二〇一九年十月刊／第1回配本）

第2巻 人――芸談　⊙解説　松岡正剛

……「芸」とは、「演じる」とは。俳優としての森繁さんは、自らの〝仕事〟をどう見ていたのか。俳優仲間、舞台をともにした仲間との思い出を綴る珠玉の随筆を集めた『品格と色気と哀愁と』『もう一度逢いたい』他。　（二〇一九年十二月刊／次回配本）

第3巻 情――世相　⊙解説　小川榮太郎

……めまぐるしい戦後の社会の変化の中で、古き良き日本を知る者として、あたたかく、時にはちくりと現代の世相を見抜く名言を残された。『ふと目の前に』『左見右見』他。

第4巻 愛――人生訓　⊙解説　佐々木　愛

……俳優として芸能界の後輩に語るだけでなく、人生のさまざまな場面で、だれの心にもしみる一言を残してくれた。『わたしの自由席』『ブツクサ談義』他。

〈付〉森繁久彌　自筆作品

第5巻 海――ロマン　⊙解説　片山杜秀

……人と文化をつなぐ〝海〟を愛し、「ふじやま丸」「メイキッス号」などの船をもち、78歳で日本一周をなしとげた森繁さん。『海よ友よ』他。

■全著作〈森繁久彌コレクション〉推薦

石原慎太郎（作家）
稲盛和夫（京セラ株式会社 名誉会長）
老川祥一（読売新聞グループ本社 代表取締役会長）
岡田裕介（東映㈱グループ 代表取締役会長）
加藤登紀子（歌手）
黒柳徹子（女優・ユニセフ親善大使）
堺　正章（歌手・俳優・司会者）
玉井義臣（あしなが育英会 会長）
野村正朗（大阪府立北野高等学校 六稜同窓会会長）
橋田壽賀子（脚本家）
橋本五郎（読売新聞 特別編集委員）
松本白鸚（歌舞伎俳優）
萬代　晃（早稲田大学理事／校友会代表幹事）
山田洋次（映画監督）
由井常彦（公益財団法人三井文庫 文庫長）
吉永小百合（俳優）

（五十音順）

❖ 2019年10月発刊（隔月刊）
定価＝本体各2,800円＋税
四六上製　各巻500～700頁／口絵2～8頁／解説、月報付

＊各巻タイトル等は仮

藤原書店

〒162-0041　東京都新宿区早稲田鶴巻町523
TEL 03-5272-0301 ／ FAX 03-5272-0450　＊PR誌『機』・ブックガイド呈
e-mail info@fujiwara-shoten.co.jp　http://www.fujiwara-shoten.co.jp/

全著作〈森繁久彌コレクション〉を推す

石原慎太郎（作家）

ヨットの思い出

天下の名優、天下の才人、森繁久彌を海に誘い百フィートの大型ヨットまでを作り、果ては三浦半島の佐島にヨットハーバーまで作らせたのはかく言う私で、後々にも彼の絶妙な色談義を交えたヨット談義を堪能させられた。森繁さんの海に関する物語は絶品の本にもなるだろうに。

photo: 操上和美

黒柳徹子（女優・ユニセフ親善大使）

森繁久彌さんのこと

森繁久彌さんは、面白い人だった。この本を読むかぎり、相当のインテリだけど、私に会うたびに「ねえ！　一回どう？」と最後までささやいて下さった。何歳になっても、ウィットのある方だった。セリフのうまさは抜群で、私は長ゼリフなど森繁さんから習ったと思ってる。カンニングしながらでも、その人物になりきっている森繁さんに、ちっとも嘘はなくセリフは真実だった。そして何より、森繁さんは詩人だった。もっと長く生きてほしかった。

photo: 下村一喜

山田洋次（映画監督）

天才

演じても歌っても描いても語っても、何をしても一流だった。こういう人を天才というのだろうが、そんな言い方をされるのを死ぬほど嫌がる人でもあった。

加藤登紀子（歌手）

森繁さんと再会できる

私にとって運命の人、森繁さん。満州から佐世保に引き揚げた日がわが家と森繁家は数日しか違わない！　そう解ったのは「森繁自伝」でした。森繁さんの声が聞こえて来そうな名調子に魅せられて、何度も読みました。

「知床旅情」が生まれた映画「地の涯に生きるもの」と「屋根の上のヴァイオリン弾き」という貴重な足跡からも、他の誰にもない熱情を受け止めてきました。

没後十年で「森繁久彌の全仕事」が実現。もう一度じっくりと、森繁さんと再会できる！　本当に嬉しいです。

松本白鸚（歌舞伎俳優）

"森繁節"が聞こえる

「この人は、いまに天下とるよ」。ラジオから流れる森繁さんの朗読を聞きながら、播磨屋の祖父（初代中村吉右衛門）がポツンと言いました。子どもだった私が、森繁さんを知った瞬間です。祖父の予言どおり、森繁さんはその後、大活躍をされ、日本を代表する俳優の一人となられました。

『勧進帳』をこよなく愛し、七代目幸四郎の祖父、父、私と、三代の弁慶をご覧になり、私の楽屋で、勧進帳の読み上げを朗々と披露してくださいました。それはまさに祖父の弁慶の科白廻しそのままでした。

本書には、多才で教養に充ち、魅力溢れる森繁さんの「人となり」が詰まっていて、読んでいると、在りし日の「森繁節」が聞こえてくるような気さえします。

photo: 三浦憲治

森繁久彌　著書一覧

『こじき袋』　読売新聞社　一九五七年（中公文庫　一九八〇年）
『見てきた・こんな・ヨーロッパ』　雪華社　一九六一年（中公文庫　一九九二年）
『アッパさん船長』　中央公論社　一九六一年（文庫　一九七八年）
『森繁自伝』　中央公論社　一九六二年（文庫　一九七七年）
『森繁らくがき帖　はじのうわぬり』　今野書房　一九六四年
『友よ明日泣け』　サンケイ新聞出版局　一九六六年
『涙をけとばせ』　文化放送出版部　一九六七年
『ブックサ談義』　未央書房　一九六七年
『知床旅情』　共同音楽出版社　一九七二年
『わたしの自由席』　大学書房　一九七六年（中公文庫　一九七九年）
『一片の雲』　ちはら書房　一九七九年
『にんげん望遠鏡』　朝日新聞社　一九七九年
『さすらいの唄　私の履歴書』　日本経済新聞社　一九八一年
『人師は遭い難し』　新潮社　一九八四年
『ふと目の前に』　東京新聞出版局　一九八四年
『あの日あの夜』　東京新聞出版局　一九八六年
『左見右見』　扶桑社　一九八七年
『森繁久彌の碧い海を求めて――メイキッスⅢ世号　日本一周クルージング』　東京新聞出版局　一九九二年
『隙間からスキマへ』　日本放送出版協会　一九九二年
『海よ友よ』　朝日新聞社　一九九二年
『夜光虫』　新潮社　一九九三年
『帰れよや我が家へ』　ネスコ　一九九四年
『青春の地はるか』　日本放送出版協会　一九九六年
『もう一度逢いたい』　朝日新聞社　一九九七年
『品格と色気と哀愁と』　朝日新聞社　一九九九年

◉注文書　〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523　藤原書店　TEL 03-5272-0301／FAX 03-5272-0450　info@fujiwara-shoten.co.jp

ご注文は、藤原書店営業部まで直接、またはお近くの御便利な小売書店でお申込み下さい

■注文　『森繁久彌コレクション　全5巻』〔　　〕セット
『森繁久彌コレクション　第　巻』〔　　〕部
『森繁久彌コレクション【内容見本】』〔　　〕部

お申込み書店（帳合・番線）

■お名前　（ふりがな）　■お電話番号　（　　）

■ご住所　（郵便番号）